

## スリランカの政権交代とこれからの取り組み



競替える議員を脅すラージャバクサ元大統領を風刺する漫画(2014年12月3日ウダヤン紙)。党に参加する議員にはカネを(左手)、離れる議員には書類(右手:不正に関する報告の意)を提示している。



選挙ポスター合戦の痕跡

投票翌々日(2015年1月10日)の現地紙 DailyMirror の一面

パルシクが事業を展開する地域のひとつであるスリランカが注目を集めています。

二〇一五年一月に行われた大統領選挙の結果、前保健大臣のシリセーナ氏が当選。盤石と思われたラージャバクサ前政権が退陣に追い込まれたことに、スリランカの人びとも驚いたようです。

二〇〇四年に首相に指名され、翌年の大統領選挙で新しい国家元首となったラージャバクサ氏は、二〇〇二年からはじまった政府と反政府武装勢力LTTEとの停戦合意と和平交渉が停滞する中で、次第に軍事路線の傾向を強めていきました。二〇〇七年一月に来日し、当時の福田首相と面談した際には「武力によらない解決を目指す」と公言したものの、直後に停戦合意を破棄。LTTE支配地域にいた国連関係者を追い出し、メディア統制を敷いた上で、一気に軍事攻勢をかけました。二〇〇九年五月の「終戦」によって同大統領は英雄として名を馳せることになりましたが、就任二期目からは独裁色を強め、一族による権力の乱用や汚職の蔓延が批判されていました。また、終戦間際における戦争犯罪の疑惑を招く結果にもなりました。

この間、現地活動を展開する私たちNGOも、滞在ビザ取得に苦労し、時には現場に入ることさえ大きな障害を伴いました。紛争影響地の現地スタッフや住民は、言葉では言い表せない不満や不安を抱えながら生計基盤の改善に努力してきましたのです。

今回の政権交代を受けて、パルシクではスリランカの動向を伝える日本での緊急集会を二回開催しました(裏表紙)。関心のある方々の意見交換でも、スリランカの一般状況の改善は一筋縄ではないだろう、という意見が多く挙がりました。どちらも多くの参加者を得て、スリランカに関心を寄せる仲間が多いことに励まされました。

新たに出現した「地平」の中で、私たちにできることは何か、引き続き考え、行動していきます。

目次	スリランカ	スリランカの政権交代とこれからの取り組み…… 1	石巻市北上町	新古里農園の特産物作り…… 7
	東ティモール	東ティモール概況、コーヒー事業…… 2	フェアトレード	
	東ティモール	農村女性の経済活動支援、養蜂事業…… 3	ショップリニューアル、ハーブティー新発売…… 7	
	スリランカ	ムライティブ漁民生活向上支援、リサイクル・サリ事業…… 4	パルシクからのお知らせ…… 8	
	スリランカ	紅茶有機転換事業/マレーシア ペナン持続可能な活動を目指して…… 5	スリランカ集会、淡路町マルシェ、	
	パレスチナ	ガザの人びとと共に復興支援活動…… 6	ボランティア活動、ご支援のお願い	

シヤナナ首相辞任の背景

二〇一五年二月一六日、シヤナナ首相は野党フレテリンのルイ・マリア・デ・アラウジョ氏を後任に据え、自身は首相を辞任して開発計画投資大臣に就任、内閣を与野党混在で五十五閣僚から三十五閣僚に縮小するという大改造を実施しました。ルイ新首相は医師でマネージメント能力に長けているとの評判で、就任後さつそく予算の無駄遣いや公務員の評価制度見直しなど、巧みなメスさばきで省庁改革を進めています。

野党であるルイ首相の強気な改革は、反感や社会不安を招きかねません。しかし、それを防いでいるのは新首相への人びとの期待と信頼もさることながら、シヤナナ氏が後ろ盾となっているからだという見方が強くあります。未だ民衆から強い信頼を集めるシヤナナ氏は、なぜ突然首相の座から降りたのでしょうか。表向きは「次世代政治リーダーの育成」となっています。背景には二〇一三年から抱える国内の治安問題があります。

二〇一三年一〇月、元東ティモール民族解放軍（フアリンティル）幹部のマウク・モルック氏が亡命先のオランダから帰り「マウベレ革命評議会（Konselho Revolusaaun Maubere : KRM）」を立ち上げ、出身地バウカウ県の元ゲリラ兵士たちを動員し、シヤナナ政権を汚職の巢窟と批判し始めました。十一月二八日の独立宣言記念日にシヤナナ氏は対話の機会を設けましたが、マウク・モルック氏は対話の場に姿を現さず、政府および議会の解散、再選挙を要求する示威運動を組織すると発表しました。二〇一四年三月、一般市民に軍服を着用させるなど違法行為により社会不安を煽

上：1983年ごろの写真。中央の迷彩シャツを着ているのがシヤナナ氏、左から2人目がマウク・モルック氏。  
下：シヤナナ氏（左）とルイ新首相（右）。



つているとして警察に逮捕されますが、十二月に証拠不十分で釈放。二〇一五年一月にはKRMメンバーがバウカウ県で警察官を襲撃したことで、国防軍と警察がマウク・モルック氏検挙のための合同作戦を展開しています。

背景には独立前の抵抗闘争中、シヤナナ氏がフアリンティル司令官となった後、マウク・モルック氏を幹部から外したことから個人的な怨恨があるといわれています。しかし過去の個人的な問題が独立後のいま脅威となり得るのは、マウク・モルック氏が批判している内容が、多くの人びと、とりわけ元フアリンティル兵として苦難を共にし、独立後、貧しさにあえいでいる人びとの共感を得るからです。

マウク・モルック氏はシヤナナ氏が元インドネシア併合派だった人びとをも要職につけ、国会議員や閣僚たちへの生涯年金、人員交代のたびにあてがわれる高級車、目的や生産性の疑わしい外遊など、一部の特権階級を優遇していると批判しています。武装していることが明らかとなっているKRMに対しては、警戒して平静を保とうとしている市井の人びとも、この批判は妥当である、と感じています。ルイ首相の省庁改革とともに、KRMにどう対処するのか、人びとは静かに見守っています。

（伊藤 淳子）

■ コーヒー二次加工場を建設中です

東ティモールのコーヒーをより良い状態で市場へ出荷するために、二〇一五年一月、デイリで自前のコーヒー二次加工場の建設を開始しました。二〇一五年度から、コーヒー生産者協同組合から買い取ったコーヒーパーチメントは、この工場ですぐ脱殻、選別、袋詰めをしてから船積みすることになります。建設にあたっては、用地の選定、加工場建設作業、専用の機械購入から設置まで、すべてが新しい経験で文字通り右往左往の日々ですが、積年の夢がいよいよ実現するとあって、コーヒー事業担当スタッフたちは週末も返上して作業を進めています。

この二次加工場を通じて、東ティモールのさまざまなコーヒーを世界各地の市場へ提供できるようになると同時に、東ティモールのコーヒー生産者協同組合の発展をさらに支えていきたいと夢見ています。本格稼働は今年のコーヒーシーズンが始まる七月以降の予定です。

（伊藤 淳子）

建設中のコーヒー加工場の内部





■ムライティブにセリ場がついに完成！

コミュニティ復興支援事業では、コミュニティセンターの建設と、その施設での各種プログラムを実施してきました。帰還した漁民たちの生計向上を支える為に、セリ場の建設を進めています。

スリランカ北部ムライティブ県において、カルナドゥウカーニとカラパドゥウの両村でセリ場が完成しました。

現在、漁民は捕れた魚やエビなどをムダラーリ（高利貸しも兼ねた網元であり仲買人）に販売しています。漁民の中には、漁網購入などでムダラーリから借金をしており、ムダラーリへの依存度が高く、弱い立場に置かれている人たちもいます。また、一部の漁民は自発的に木の下や砂浜でセリを行っています。一方、漁協も、収入源を組合員からの会費に頼っており、運営資金が少なく、組織として体力がない状況に置かれています。漁協を自立した強固な組織に変革するためには、漁協が自ら運営するセリ場を持ち、



砂浜でセリをするカラパドゥウの漁民たち

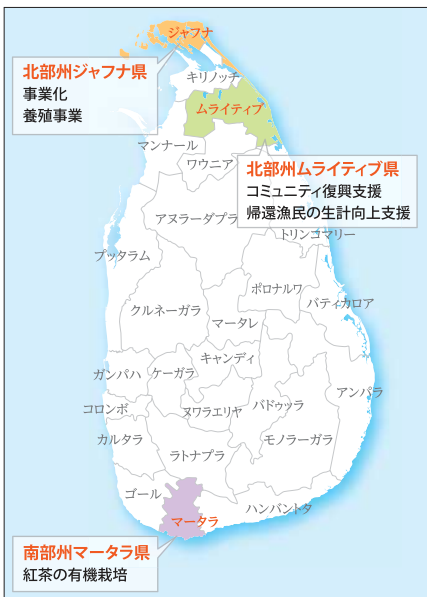
セリ場で販売した収益の一部を組合員から回収し、漁協の運営資金を永続的に確保・運用することが必要です。組織を強化すれば、組合員である漁民の生活も向上します。

より安定した生活のためにより多くの収入を漁民は望んでいます。カルナドゥウカーニ村漁協の組合長ジョセフさんは、「セリ場完成後、そこでの販売で収益を増やし、我々の力で漁協を発展させていく。ゆくゆくは村のためになる事業も計画していきたい」と話していました。

画していきたい」と話していました。

バルシツクはセリ場の完成後も漁協の皆さんと共に、セリの適切な実施や資金管理など運営管理の支援にも取り組んでいきます。（飯田彰）

（この事業は、日本NGO連携無償資金協力の助成を受けて実施しています。）



■リサイクル・サリー事業、ムライティブで開始

二〇一二年にジャフナで始めたリサイクル・サリー事業は、開始から約三年が経ち、メンバーの女性たちの縫製技術が上がってきています。二〇一四年の年末から二〇一五年の初頭にかけは、コロンボから縫製・刺繍のプロを招き、三回に亘る研修を実施しました。これまではミシンでまっすぐ縫うシンプルな作業が中心でしたが、研修を経て刺繍やパッチワーク、レースなどの新しい技術がメンバーのレパートリーに加わり、クッションカバーやテーブルクロスなどの新商品ができて上がりつつあります。

三回の研修を担当してくださったアンドレア・ブケルさんは、フェアトレード店の商品デザインなどを手掛けるアーティスト。研修中の女性たちの様子について



ウドウトゥライ村で研修の復習をする女性たち。右端がジャニタさん

リサイクル・サリー製品



（この事業は、JICA草の根技術協力事業の支援を受けて実施しています。）

（伊藤文）

で「彼女たちが元から持つ創造力やセンスを活かして、新しいことに楽しみながら取り組む姿勢が印象的でした。楽ではない暮らしの中でも明るい彼女たちの姿に私自身も刺激を受けました」と話してくださいました。ウドウトゥライ村のジャニタさんは「研修は役に立つだけでなくとても楽しかった。もっと新しいことを学びたい」と前向きで、自ら色々な試作品を作ってスタッフに見せてくれます。二〇一五年四月からは、ムライティブ県の女性たちも新たにプロジェクトに加わりました。コクライ、カルナドゥウカーニ、ムリワイカイの三つの村でプロジェクトへの参加者を募り、六月に裁縫の指導を始める予定です。新しいメンバー、新しい商品が加わった女性たちのブランド「サリーコネクション」を、コロンボを中心としたスリランカ国内の市場に広げることが二〇一五年の課題です。

## ■デニヤヤ 三度目の有機認証(転換中)検査

デニヤヤの紅茶事業では、今年の三月中旬に三回目の有機JAS認証検査を受けました。二〇一五年五月現在、紅茶事業に参加している農家約八五世帯のうち、一年以上農薬・化学肥料を使わない農法を続けてきた約五〇世帯の七三圃場(有機転換圃場を拡張した世帯がいるので、圃場数と世帯数が違います)を対象に検査を受けました(残り三〇世帯は、二〇一五年に入ってからの新規参加農家世帯)。

検査はスリランカの都市コロomboにある登録認定機関を通して行っています。七三圃場のうち、以前からの参加農家の圃場、今回の監査が初めての圃場からラングラムに一九圃場を選び、コロomboから来た検査官によって、二日間わたり各世帯の圃場の状態、農業記録などの確認作業が実施されました。また、農薬残留検査のために圃場から土壌のサンプルを採取しました。検査の結果、今年も有機(転換中)の認証を受けることができました。来年もう一度検査を受けて、問題がなければ、二〇一六年には転換中ではなく、完全に有機認証を受けられることとなります。

ただし、問題点が残りました。今回、検査直前に隣り合わせの圃場で嫌がらせ

目的で農薬がまかれるという事故が起きました。隣の圃場で農薬をまかれた圃場は、二〇一六年に認証を受けることができません。当該の圃場からの茶葉出荷も即時停止しました。事業に参加している農家には、近隣の農家にも農薬散布をやめるように協力を求めるよう指導してきていますが、今後もっと深く地域に当事業の意味を理解してもらえようような努力が必要であることを再認識しました。

(高橋知里)



有機認証取得にあたり、農家にとっても、スタッフにとっても一番大変な圃場記録のつけ方を指導している様子。

## ■マレーシア ペナン 持続可能な活動を目指して

今年度はPIFWA(Penang Inshore Fishermen's Welfare Association)ペナン浅海漁民福利協会)とPIFWANITA(PIFWAの女性グループ)が平等なパートナーシップを組んで、活動を支え合うようになりつつあります。PIFWAの活動をPIFWANITAが学びながら担い、年代もずっと若返っています。

昨年末のスタディツアーは、企画を初めてから五年目にして、ようやく日本から一〇名の参加となりました。また、日本の環境省のイニシアティブで日本企業のCSR担当者も訪問し、日本からさまざまな経験や専門性をもった人たちとの交流が実現しました。

PIFWANITAは四〇名ほどのメンバーがいますが、リーダーのシテイさんはもうすぐ三〇歳で、PIFWAのイリアス代表とは親子ほどの年の差があります。雇われ漁師の妻で三人娘の母です。女性たちは、マングローブ植林、伝統的なマレー料理の作り方(多民族多文化社会のマレーシアでは料理番組をたくさん放映しています)やマングローブ製品であるジャムやお茶の紹介まで、賑やかに手際よく行います。マレー人の女性たちは経済的にも脆弱ですが、文化的にも表

に出るチャンスがほとんどありません。今年の五月に、マングローブ製品の市場調査のために村から一時間ほどのペナン一番の市街地であるジョージタウンへ一緒に出かけたのですが、それが彼女たちの生涯で数回目の村を出る機会だったというところにショックを受けました。家庭生活から活動の範囲が広がれば、メンバー間の衝突や、病気・怪我で活動を脱退する人が出るなど、さまざまな苦労も出てきます。

今後の最大の課題は、PIFWA、PIFWANITAともに活動の長期的な展望を描きながら、経済的に自立した活動をどう続けていくかです。持続的な環境は、村での生活も持続可能でなくてはなりません。パルシックはより多くの方たちの訪問がその鍵になっていくと考えています。

(大塚昭代)



マングローブの葉をお茶用に細かく切るPIFWANITAの女性たち

(食品加工事業は、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受けて実施しています。)

■パレスチナ ガザの人びとと共に復興支援活動

二〇一四年八月末にイスラエルのガザに対する攻撃が停止してから、約九か月が経ちました。しかし、この攻撃で被災した家屋を再建するための建築資材は、イスラエルによってガザへの搬入を規制され、このままでは復興までに百年かかるとも言われています。

今回の攻撃によって多くの医療施設も被災しました。負傷者が増加し、医薬品や医療機器が不足して緊急性が高まっていた中、パルシツクは停戦直後からガザ地区で医薬品と医療器具を配布する緊急支援を実施しました。パルシツクが支援した病院の一つ、アウダ病院にはガザ北部で唯一、産婦人科が入っています。この病院で出産を終えたばかりのサマヘルさんは、以前、十分な医薬品がないため流産してしまった辛い経験を持っていますが、「今回は十分な医薬品が病院にストックされていたことで、安心してお産に臨めた」



と、ほっとした表情で話してくれました。

ガザ地区では食糧難も深刻化していました。住民の大半が難民で、働く場所も限られているため、攻撃以前から国連等から食糧配給を受けていましたが、米や小麦、砂糖といった乾燥食品のみで、野菜等の生鮮食品は手に入りづらい状況でした。攻撃後、生鮮食品の値段が高騰したことで貧困世帯にとってはますます手が届かなくなりました。パルシツクはそうした状況にあるガザ地区中部デルアルバラ地域の貧困家庭、九三世帯を対象に、野菜や鶏を含む食糧バスケットを配布しました。

今年三月からは新しいプロジェクトを始めました。被災した小規模農家の平均月収は、攻撃前の約二〇〇ドルから現在は半分まで落ち込み、攻撃による平均被害総額は一世帯あたり一万ドルに上ります。ガザ地区の食糧生産のために、農家の復興は不可欠です。パルシツクはそうした農家一〇〇世帯に対し、農機具や種・苗を提供し、彼らの生計を支えるとともに、その生産物の一部を買い取って貧困世帯に新鮮な野菜を配布する予定です。

また、度重なる戦闘で男手を失った世帯への支援も開始しました。ハムダさんは二〇一二年の攻撃で夫を亡くし、二人の子どもと義母を養うため、小さな家畜を育てて収入を得ていました。二年かけて少しずつ収入を増やしてきましたが、昨夏夏の攻撃で家畜のほとんどが全滅し、困窮していました。ハムダさんのような寡婦世帯はガザの一割を占めるといわれます。今回、

下…子どものケア、久しぶりの遠足で笑顔を見せる子どもたち  
左…食糧配布で受け取った鶏を抱える子どもたち



特に貧しい二十一の寡婦世帯を対象に、食用・販売用の鳩とウ



サギを配布し、家庭の栄養状況の改善と生計向上を支援しています。鳩とウサギを受け取ったハムダさんは「今回の支援のおかげでたくさん収入が得られるようになると思います」と期待をにじませます。

ガザ中部の二か所の施設では、戦争で心に深い傷を負った子どもたちに対する心のケアを開始しています。二〇〇八年より既に三度の戦争を経験している子どもたちは、大きな音が爆撃を想起させることから恐怖心を持っていたり、暗闇や一人になることが怖かったりと、トラウマを抱えています。ガザの未来を担う子どもたちが明るい笑顔を取り戻せるよう、デルアルバラ地区の子ども三〇〇人を対象に心理劇やアート療法を通じたケアを継続しています。

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施しています。)

(大野木)

■新古里(にっこり)農園の特産物作り

石巻市北上町十三浜の新古里農園ではハマナスが咲き始めました。

三年前の秋に、市内の防潮堤が建設される砂浜から約二〇〇株を農園の花畑に移植しました。ハマナスは海岸沿いに自生するバラの原種で、花や実を食べることができません。石巻では、津波によって絶滅の危機に瀕し、群落があるのは農園を含め二箇所だけのことです。剪定や株分けの方法を学び、冬の間に手入れを行った結果、今春は大きな花が次々と咲くようになりました。このハマナスの香りと鮮やかな紅色の花びら、ビタミン豊富な実を、リンゴや梨などの果物と合わせてジャムにしたり、ドレッシングに入れてたりして、特産物を作り出す試みを続けています。ハマナスの花びら入りリンゴジャムは「口の中で花の香りが広がる」「上品な気分になる」とイベントでの試食販売も好評でした。

当初「こんなもの植えてどうするの？棘だらけで草取りの邪魔になるだけ」と北上の人たちには不評だったハマナスですが、「震災前は浜のあちこちにあった」「子どもの頃、実をおやつに食べた」「地方によってはお盆に実を飾る習慣がある」と昔を思い出す人や「棘が獣避けになる」「高台に家を建てたら庭に植えた

い」と株分けを希望する人もいます。最近では、農園のスタッフだけでなく、石巻市内や仙台からも、ハマナスの栽培や加工に興味のある人たちがこの活動に参加するようになりました。

「海がすぐそこにある」農園ならではの取り組みに興味をもち、訪れてもらえるよう創意工夫していきたいと考えています。(西村陽子)

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施しました。)



ハマナスの花

ハマナスを使った料理の試作ワークショップ

フェアトレード

オンラインショップ、リニューアルしました！

いつもパルシックの商品をご愛飲くださり、ありがとうございます。

2015年1月23日、パルシックオンラインショップは、より使いやすく、見やすいショップを目指し、デザインを一新して“Par Marche (パルマルシェ)”というサイトにリニューアルいたしました。新しいサイトでのお買い物をお待ちしております！



リニューアルしたショップ、パルマルシェ <http://parmarche.com>

※旧オンラインショップで登録されていた会員情報は、サーバーの変更にともないデータの移行を行っておりませんので、改めてパルマルシェにご登録いただきますようお願いいたします。

東ティモール産ハーブティー  
アロマ・ティモールに新味が登場！

アロマ・ティモールに新しく“レモングラス”と“月桃”の2種類のハーブが加わりました。レモングラスはレモンに似た爽やかな香りが特徴で、風邪の予防や消化を促すのにも有効といわれています。少し蜂蜜を入れて、アイスティーにしてもおすすめです。月桃はほのかな香りが広がりやさしい気持ちになります。内面から体を温め、美肌効果があるといわれます。いずれも東ティモールの女性たちが、無農薬・無化学肥料のハーブを丁寧に手摘み・加工しています。この季節、冷房や気温の変化でバテ気味の体に、優しいハーブティーをどうぞ♪

アロマ・ティモール レモングラス	各 20g入り
アロマ・ティモール 月桃	各 ¥702(税込)



ハーブティーを作っている女性たち



レモングラス

月桃

アロマ・ティモールお取り扱い店のご紹介  
『緑の医学に取組む』グリーンフラスコ自由が丘店 さん

今年で創業30年のハーブ&アロマの老舗、グリーンフラスコさん。「緑の医学」の考え方にに基づき、植物の力を美容や健康のために活かすライフスタイルを提案しています。薬剤師でもある代表の林真一郎さんは、アロマ・ティモールの開発にあたって、効能や品質管理など相談のってくださった恩人でもあります。世界中から信頼できるものだけを選びすぐって販売している、その店内に並べられたアロマ・ティモールはちょっと誇らしげです！良い香りが広がり、訪ねるだけで元気になるようなお店に、ぜひ足を運んでみてください。

グリーンフラスコ自由が丘店



店舗：東京都世田谷区奥沢5-41-12 ソフィアビル1F  
東急東横線・大井町線自由が丘駅より徒歩3分  
Tel : 03-5483-7565  
Web : <http://www.greenflask.com/>

パルシク  
からの  
お知らせ

大統領選挙の結果を受け、  
二回のスリランカ集会を開催

2015年の最初のビッグニュースはスリランカから届きました。  
1月8日に、スリランカで大統領選挙が実施され、現職のマヒンダ・ラー  
ジャパクサが破れ、野党統一候補のマイトゥリパラ・シリセーナ氏が勝利し  
ました。2009年5月に長年続いた内戦を終結に導いて以来、強力な権力を  
行使してきたラージャパクサ氏に対してスリランカ国民はノーと言ったのです。  
それを受けてパルシクは緊急に、“この大統領選挙の結果をどうみる  
か”、“シリセーナ新大統領とラニル新首相の下でスリランカ社会は今後ど  
のように変わっていくのか”を議論する場を設け、2月18日にスリランカに詳  
しい3名の登壇による集会を開催しました。スリランカ関連の仕事をして  
いる方を中心として、50名ほどの方にお越しいただきました。  
さらにこの続編として、5月15日にはスリランカで市民運動を主導する第  
一人者であるバイキアソシー・サラワナムットゥ氏をお招きして、“新政権によ  
る改革はどこまで進んだのか”、“今後の政局の動き”、“人権問題の指摘にど  
う応えるのか”、“民族融和への期待”について考える会を開催しました。  
どちらの会も満席となり、会場からは活発にご意見やご質問があり、現在  
と今後のスリランカへの理解を深める、とてもよい機会となりました。



上…二月一日に連合会館にて開催。スリランカ緊急討論集會登壇者  
の三名。下…五月一日に、同じく連合会館にて開催。スリランカ  
の人権活動家、サラワナムットゥ氏による報告。

淡路町マルシェに  
お立ち寄りください



東京事務所併設の『淡路町マルシェ』にて、フェアトレードコーヒー、紅  
茶、ハーブティーをはじめとしたフェアトレード商品と、毎週火曜日には  
有機野菜を販売しています。  
淡路町近辺へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください!



住所：東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F  
TEL：03-3253-8990  
営業時間：月～金 10時～19時頃

お待ちして  
います。

マーケティングボランティア2015チーム、発足!

昨年度より取り組み始めたマーケティングボランティアは、4月から  
2015年度の活動を開始しました。新たなチームは男性1名、女性8  
名で結成され、まずは顔合わせを  
行いました。これから、フェア  
トレードや民際協力に通じる商品の  
背景、コーヒーや紅茶の淹れ方など、  
数回の勉強会を経て、実際にイベ  
ント出店等にチャレンジします。  
今年もメンバーのみなさんと共に、  
フェアトレードやパルシクの活動  
について広くPRできるよう、積極  
的に取り組んでいきます!



5月の世界フェアトレードデーに開  
催されたフェアトレードマルシェ

住所、メールアドレス等に  
変更はございませんか?

ここ数年で新しい住所へお引っ越しした、  
メールアドレスが変わった、名前の苗字  
が変わった……という方は、パルシク  
から民際協力ニュース・メールマガジン・イベントのご案内などの最新情報を  
正確にお届けするために、東京事務局までご一報ください!

皆さまのご支援によって支えられています

サポーターズ会員・ボランティア募集

パルシクの活動へご参加・ご協力をお待ちしております。

●サポーターズ会員(いずれも年会費3,000円)

パルシク・サポーター:

パルシクの活動全般を応援してくださる方  
東ティモール/スリランカ/パレスチナサポーター:  
パルシクの活動地を指定して応援してくださる方

●ボランティア・プロボノ募集

東京事務所での事務作業、イベント出店時の販売作業をお手伝い  
してくださるボランティアさんと、ITサポートやチラシ作りなどに  
ご協力くださるプロボノさんを募集しております。詳しくは東京事  
務局(担当:中村)までお問い合わせください。

寄付でのご支援



パルシクの活動へのご寄付を  
随時受け付けております。  
郵便局、銀行からご寄付いただけます。

- 郵便局からの寄付  
郵便振替口座：00140-8-536957  
口座名：パルシク
- 銀行からの寄付  
三井住友銀行 神田支店(普) 2384136  
口座名義：特定非営利活動法人 パルシク

※銀行からお振り込みの際は、パルシクまでご住所と  
お名前をご一報ください。